

2年生 3学期保健 小テスト

傷病者の発生

- 周囲の①を確認して傷病者の近くに行く。



②をみる

- 肩を軽くたたいて、大声で呼びかけてみる。

反応なし

- 大声で叫び③を呼ぶ。
- ④番通報をし、通信指令員の指導に従う。
- ⑤を手配する。

ほかの人に人がいたら、分担する。

⑤をみる

ふだん通りの呼吸あり

様子を見ながら、
応援・救急隊を待つ。

- 胸部や腹部の動きはあるか。
- ※ 1. ⑦の開始を遅らせないように、
確認に⑧秒以上かけない。
- ※ 2. しゃくり上げるような不規則な呼吸を、
⑨という。ふだん通りの呼吸が
⑩かなど、分からないときは、
⑪を開始する。

待つ間は、傷病者を⑫にする。
呼吸が認められなくなったら、直ちに
⑬を開始する。

呼吸なし
または⑬

心肺蘇生 直ちに⑭を開始する。

強く

速く

絶え間なく

成人は約⑮cm、
小児は胸の厚さの
約⑯

⑰～⑱
回/分

中断を最小限にする。

人工呼吸の技術と意思があれば
気道を確認し、「胸骨圧迫⑲回＋
人工呼吸⑱回」を繰り返す。



リンク

- P.81～82 | 心肺蘇生の方法
- P.83 | AED (自動体外式除細動器)

AEDの⑲を入れ、
音声メッセージに従う。

- 以下のいずれかに該当するまで、心肺蘇生とAEDを続ける。
- 救急隊員に引き継ぐ。
- 傷病者が呼吸や目的のあるしぐさを始める。

電気ショック⑳回、
その後、直ちに
から再開

⑳電気ショック
は必要か

直ちに㉑から再開

救急隊による搬送と応急処置

㉒による治療

*心肺蘇生法は、現在もより良い方法が研究されているため、改訂されることがある。